



街の魅力に気づく本 [街本] のかわら版

TAKE
FREE

マチボン

2025 SPRING ISSUE

マチボンジャーナル

VOL. 009

愛媛ゆるりずむ。
粋なライフスタイルペーパーだよ。

特集

BACK to THE 80's

こんにちは、マチボンジャーナルです。
フリーペーパー・SNS・YouTubeやらなん
やらで、えひめ暮らしを愉しむための情報
をお届けしています。さて、今回の特集は
「Back to the 80's」。なんでもかんでもブ
ラック、コンブラ、ハラメント…キラキラ
してて野蛮だった昭和を懐かしんでみた
くなりますよ! マジで。ということで特集は、
愛媛で80年代に浸れる場所を旅してきま
したっ! 今号も感動のコンテンツ満載で、
手に取って頂けると幸いですー!

Contents

- BACK to THE 80's
- 愛媛デザイナーズハウス
- COLUMN

ロケーション：菅井内科

松山80年代ショートトリップ

Back to THE 80's

バックトゥザ エイティーズ



ノリヨ

お待たせしました。お待たせすぎたかもしれません。令和に昭和を呼ぶ男、ノリヨくんが満を辞して帰ってきたゾ。1983年の松山を舞台に繰り広げるのは、ハラハラドキドキの恋物語。街のあちらこちらで大切に受け継がれている80年代テイストを味わいつつ、ノリヨくんと激マブなすみれくんの恋の大冒険、ぜひ味わってみて！……若干のオフザケは許してちょんまげ。実はわりとマヂメな80年代へのオマージュなんだよ。

direction/ryosuke matsushita & noriwo
short story/mikiko abe
photo/makoto kunisada
design/madoka doi
model/sumire & noriwo
caption/akira mizumoto

全ては、
この帽子から始まった。
ノリヨ物語第2弾！

お店の解説してくれた人

ミスモトアキラ

●1969年、松山生まれ編集者/DJ。1988年、美大進学をきっかけに上京、2013年よりふたたび故郷の愛媛を拠点に活動中。古書、中古盤、純喫茶、大衆食堂、モダン建築などをこよなく愛している。



すみれ



①ひっそり飾られた帽子

この帽子羽が怪しい！



②店主にすすめられ



③試着したら...



ふるぎやきっかけや 肉

spot.1

住：松山市千舟町3-1-6(藤村ビル2F)

古着屋きっかけや肉という風変わった店名は、古着を通じて、何かしらのきっかけを作れたら、という事から。(肉は、大事だからとかなんとか…忘れた。)80年代から2000年代にかけての日本の古着を中心に、独自のセレクトがタイムレスでエクスクルシブでプライスレス!いわゆるマストバイアイテムは全くないが、とにかくまあ、他の人とは被らない面白いものが見つかる。時々、店内でワークショップやってみたり、オーナーの矢野君はDJもやってみるよ。

※大人の事情で、この文章は編集長が書きましたよ。



ボウズ、キルナー、アムステルダム、見せる?



ノリヨ、ブラックコーヒーデビュー



ハンバーグが"レンレン"だぞ!



「肉」で試着した昭和ファッションです

昭和の人、ウルト・ホスト・カワイイ

spot.2

住：松山市紅葉町3-47

数年前に取材させていただいた際、どんなお客さんにも懐かしいと思ってもらえるよう、店内に飾ったオブジェひとつの位置さえ動かしていない……と仰っていたマスターに感銘を受けた。古いものを否定し、ゼロから作ることは勢いだけで乗り切ってしまう。でも、現状を長く維持するにはアイデンティティが必要だ。こうした哲学と歴史ある店が今の若者たちを引き付けるのは、単なるブームやノスタルジーでは片付けられないと思う



男はつらいよ ノリヲとアラレちゃん



「今年、東京●●●●ランド(※1)が開園するらしいぜ」と得意げに話す情報通の先輩に、何のことか分からず、頭がウニ(※2)になってしまった。そのデズニーとやらが開業した後、巷にはおしん(※3)ブームが巻き起こる。かくいうボクも毎朝、出勤前の15分、溢れる涙を抑えきれない。あ、ボク、ノリヲです。エム大学を卒業し、地元商社に入社した23歳。ファッションにはちよいとうるさく、『BRUTUS』や『MEN'S CLUB』(※4)をバイブルに、『ハイティーン・ブギ』のマッチ(※5)をお手本にして独自路線で悦楽男(※6)まっしぐらだ。

そんなボクは、学生時代の哀しい恋愛(※7)を経て、ようやく2度目の恋に巡り合った。お相手は、「どんるーかす」でアルバイトをしている、アラレちゃん帽子が似合う女の子。恋も2度目なら(※8)、少しは上手にアプローチできるはず…と思いつつ、声をかけることもできない。名前さえ知らないのに(※9)、彼女に恋をしたボクは独身寮で『キャッツ・アイ(※10)』を聴き、「ミスティアス・ガール…」と呟いた。

だが、奇跡は起こった。「モア・ミュージック」で中古レコードを漁っていたボクは、LPレコードの山の向こうに愛しの彼女を発見したのだ。勇気を振り絞って、ボクは声をかけた。「ニャンニャン(※11)しませんか?」。あっ、焦ってとんでも無いことを言ってしまったが、彼女は小首を傾げて「ニャンニャン?」。慌てて「間違えました! ニャ、ニャマエ(名前)を教えてください」。彼女はクスクス笑いながら、「すみれです」と言う。ボクはすかさず、「ス、スバル座にフラッシュダンス(※12)を見に行かない?」と誘った。

数日後、ボクは完璧なデートプランを立てた。街ブラ、映画、街ブラ、ご飯、街ブラ。若干、街ブラ比率が高いが、これは綿密な計画。歩き疲れた彼女を言葉巧みに独身寮へと誘い込み…。いや、ニャンニャンとは言いません。なんとかA(※13)をという淡い期待を抱いていたのだ。その夜、ボクは社長となって秘書のすみれちゃんと働く夢を見た。

デート当日、予定を確実にこなして、今、ボクとすみれちゃんは独身寮の屋上で沈む夕日を眺めている。「甘平みたいなお日様ね」とすみれちゃん。「三平(※14)? 師匠なら3年前に亡くなったけれど、似てる?」とボクは問い返した。すみれちゃんはそれには答えず、「ねえ、なんで私がいつもアラレちゃんの帽子かぶっているか知ってる?」と聞く。訳が分からず首を横にふるボクに、「これはね、私のデロリアン(※15)なの。私、レーワの女の子なんだ」。彼女がそう言った瞬間、夕陽がキラリと輝きを増した。思わず、瞬きをしたら、すみれちゃんがない。残されたのは、彼女がメロディアン(※16)と呼んだ帽子だけ。「えっ、またこのパターン?」。ボクの泣き声は瀬戸内海に響いた。

- ※1●1983年○月にオープンした夢の○。
- ※2●頭が混乱してしまう状態。
- ※3●1983年4月から翌3月まで放送され、空前の大ヒットを記録したNHK連続テレビ小説第31作。
- ※4●1980年代に創刊した男性向けのライフスタイルマガジン。
- ※5●1982年に公開された近藤真彦(マッチ)主演の映画とその主題歌。
- ※6●『BRUTUS』の読者が理想とした男のスタイル。
- ※7●マッチポンVOL.20参照。
- ※8●中森明菜の3rdシングル『セカンド・ラブ』より。
- ※9●マッチの5rdのシングル『情熱★熱風』せれなーで』より。
- ※10●週刊少年『ジャンプ』に掲載された漫画、また杏里が歌ったアニメ版の主題歌。
- ※11●チョメチョメすると同義語。
- ※12●市内にかつてあった映画館と1983年にヒットした映画作品。
- ※13●ABCそれぞれに意味があります。
- ※14●初代林家三平、二代目林家三平(初代こぶ平)の父。
- ※15●『バック・トゥ・ザ・フューチャー』シリーズに登場するタイムマシン。
- ※16●コーヒーフレッシュのメーカー、またはコーヒーフレッシュのこと。



spot.3 MORE MUSIC

◎住:松山市大手町1丁目9-10
1983年、松山市駅から済美高へ抜ける道沿いに、開店当時のモアはあった。たぶんタウン情報まつやまで知って、通うようになったのだと思う。ぼくは当時14歳で、坊主頭の中学生。それまで雑誌の記事でしか見たことがなかった輸入盤やインディ・レーベルのレコードが棚に並んでるのがうれしくて、お金も無いのによく遊びに行った。お店の真裏を郊外電車が走っていて、通るたびにゴトゴト鳴るのも好きだった。



愛媛の ポストモダン建築



菅井内科 ◎住:松山市一番町3丁目3-3
設計は長谷川逸子。1986年竣工。県内ではミウラトヴィレッジ、ひだまりこどもクリニック(旧・徳丸小児科)も手掛ける。環境との調和や光の使い方、有機的なデザインに定評がある。

これも80年代建築



愛媛県県民文化会館
◎住:道後町2丁目5-1 1F
1986年にケンパンは誕生した。まだ道後公園に動物園があった頃の話だ。設計者の丹下健三といえば、ぼくの中では堀之内にあった愛媛県民館(1953年)が懐かしい。珍しい丸ドーム型の屋根を持つ、コンクリート打ちっばなしの県民館に比べ、ケンパンのスケール感と壮麗さに圧倒されたことを鮮烈に覚えている。こけら落としで開催された坂本龍一のコンサートを、最前列で見たことも今となっては良い思い出。

EKINONEKI spot.4

◎住:松山市土手内12-1
海運会社が所有していた歴史あるビルをリノベーションしたEKINONEKI。カフェ、コワーキングスペース、ギャラリーとして利用されている。合併した頃、まだ東京にいたぼくは、北条が松山市になったという事実が今でもうまく馴染めないが、良くも悪くも新陳代謝の激しいお城下エリアと違って、このビルに象徴されるような、激しい時の流れの中でタフに生き延びてきた街=北条が、旅行者や移住者たちに注目されているのは納得だ。

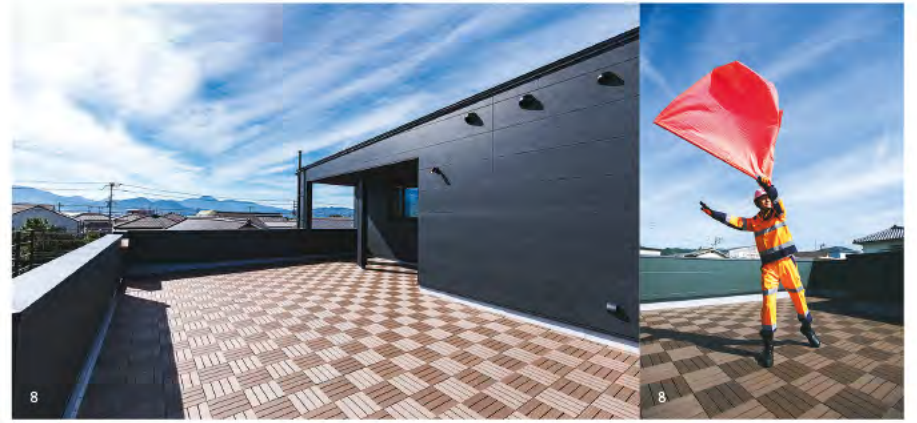


ノリヲの妄想
あー、チンチン、フックココーヒーを、絞ってまでくれるかな?



暮らしに機能と感性を。

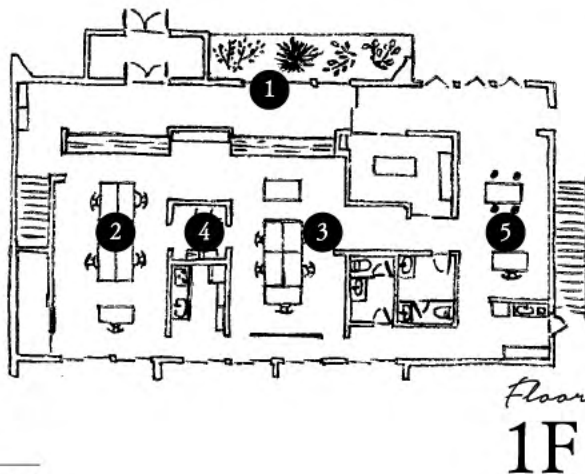
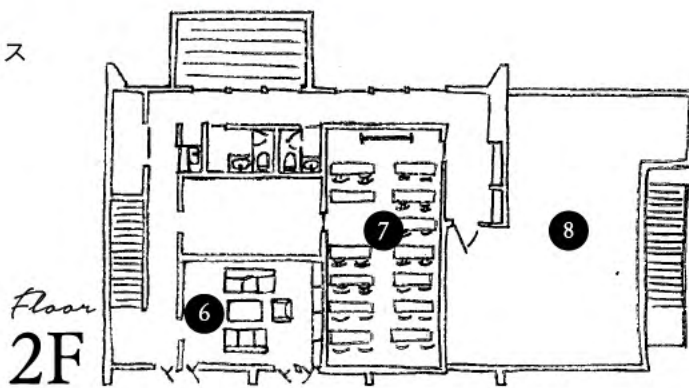
今建てたいのは、こんな家。
スタイルのある暮らしを分かってくれる
住宅デザイナーと、
実際に施工した家を紹介するぞー。
YouTube動画もcheck it out!



コミュニケーションが自然に生まれる空間構成 働く人の健康への思いをカタチにした高性能オフィス

愛媛、香川、徳島の四国3県を中心に営業展開をする警備会社「株式会社SHINWA」の本社。2024年に完成した新社屋には、社長の社員への思いが込められている。社長がイメージしていたのは、現場で働く社員の顔を見て「いってらっしゃい」「おかえりなさい」の声をかけられるオープンな空間構成に加え、ヨガ教室やBBQなどにもフレキシブルに使えるスペースを持つ社屋。そして、健康を守ることにつながる性能にもこだわりがあった。社員への“母の愛”を感じるその望みを叶えるには、高気密・高断熱な建物を施工する技術が必要。施工を担当したのは、高性能な住宅の建築の実績が豊富で、ビル商業建築も長年手がけている「ヒロ建設工業」。断熱性の指標UA値が0.33、気密性を示すC値は0.094という高レベルの性能を実現させた。上司・部下の垣根を越えたコミュニケーションが自然に生まれ、住まいと同様の快適性を備えたこの社屋は、これからのオフィスの理想形の一つだ。

- 1_北向き大きなFIX窓が、開放感とやわらかな日差しをもたらす玄関。樹脂窓のトリプルガラスを採用。カウンター越しに事務執務室・業務執務室が見渡せる
- 2・3_事務執務室と業務執務室は扉を使わず、談話コーナーや給湯室などを真ん中に配置してゾーニング。空間のつながりは、風通しのよいコミュニケーションを育む
- 4_事務執務室からも業務執務室からもシンプルかつ短い動線でアクセスできるコピー室
- 5_玄関から靴を履いたまま入れる警備員室。奥に警備員専用の給湯室が設けられている
- 6_間接照明やエレガントな地柄の壁紙などをコーディネートした応接室
- 7_会議室は、ミーティングや研修などのほか、ヨガ教室などを行うスペースとして活用することも想定してつくった
- 8_約46畳の広々としたバルコニーは、警備員の実技講習に使用。BBQなどのレクリエーションにも使える



株式会社 ヒロ建設工業 (HIROKEN)
DESIGNER
松岡弘

株式会社 ヒロ建設工業 (HIROKEN)

松山市余戸中1-1-29(余戸スタジオ)
☎:089-904-8007 matsuoka@hiroken1004.com

対応エリア: 東予 中予 南予 (県外)
対応業務: 高性能住宅・リフォーム・高性能リフォーム、商業施設等の設計・施工・リノベーション(四国内も対応)

建設業許可番号/愛媛県知事許可(特-2)第15368号
一般建築士事務所登録/愛媛県知事登録第2564号



料理とのペアリングを
楽しめよう

花から生まれた日本酒の えひめSAKE with FOOD

ORIGINAL SAKE
EHIME SAKURAHIME

えひめSAKE with FOOD 2024

道後「ふなや」で、地の食材と地酒の組み合わせを楽しむために開催。事前に厳選された選定酒と真鯛、媛っ子地鶏、伊予牛「絹の味」の料理を味わい、料理ごとに3銘柄の金賞酒を選びました。



愛媛生まれの食材と「愛媛さくらひめシリーズ」。
最高のペアリングを追い求めて、
ちょっと気になるイベントへとお出かけ。
ちよつと気になるイベントへとお出かけ。

ほんのりと
花心地に
魅せられて。

yayoi
@yayoi_y13



左はIngramさん、右はTonyさん。
それぞれ台湾で飲食店を経営

左は水口酒造株式会社の水口皓介さん、
右は首藤酒造株式会社の首藤茂さん

日本酒愛飲家のおふたり。「店では愛媛のお酒を提供しており、料理との相性を知ることで自信をもって勧められます」とIngramさん。「今日の料理を参考に、台湾で本場のペアリングとして広めたい」とTonyさんも微笑みます。

同じ酵母を使っても、蔵それぞれに特徴が出ているさくらひめシリーズ。「日本酒と食材のペアリングは、酒造りにとって大切な視点。用意していただいた料理で、お酒との相性を確かめたい」と声をそろえるふたりです。

日本酒初心者こそ試してほしい、料理と味わうさくらひめ

「普段、日本酒を嗜む機会は少ないですが、お花から生まれた酵母を使った地酒・愛媛さくらひめシリーズには、以前から興味を持っていました」とyayoiさん。この日は、愛媛が誇る3つの食材「真鯛」「媛っ子地鶏」「伊予牛絹の味」の料理が用意されていて、さくらひめとのペアリングを試すことができました。また愛媛の酒ブームが起きている台湾からも日本酒愛飲家が来られ、県内の蔵元に今年のお酒の特徴などを直接聞くこともできました。

「さくらひめシリーズ」は酵母の違いにより、「ト

ロピカル」「クリア」「ウェルバランス」「リッチ」の4タイプがありますが、yayoiさんはまず「クリア」と真鯛の刺身のペアリングに挑戦。「すっきりとした味わいのお酒が真鯛の甘みを引き出してくれている」とご満悦。しっかり目の味わいの媛っ子地鶏には「リッチ」、伊予牛「絹の味」には「ウェルバランス」と次々とお試し。同じように楽しんでいる台湾の方の姿も微笑ましい限り。「食事と一緒に味わうさくらひめ、クセになりそうです」と頬を桜色に染めて微笑むyayoiさんです。



GOOD DESIGN AWARD
2024年度受賞



EHIME SAKURAHIME
愛媛さくらひめ酒造



愛媛さくらひめシリーズ

愛媛県オリジナル品種のデルフィニウム「さくらひめ」から分離培養された清酒用花酵母を使用し、愛媛県産の酒米、愛媛県内で採取された水にこだわって醸された「愛媛テロワール」の新しい日本酒。

WEB販売情報

蔵元屋・オンラインショップ

愛媛県酒造組合が直営する愛媛県の地酒のオンラインショップ。スタンディング・バー形式の気軽な雰囲気、愛媛県内の28蔵元150種類以上の日本酒を、ワンショット100円から楽しめる。

住：松山市一番町1-11-7 演商一番町ビル1F
電：089-934-5701 営：13:00～21:00(LO 20:45)、
金・土曜 ～22:00(LO 21:45) 休：月曜



TRIP STORY

— 愛媛・佐田岬半島 —

ふと、どこか遠くへ行きたくなった。
 ノスタルジックな景色の中で、時間を忘れる旅をしたかった。
 そして向かったのは四国の最西端、佐田岬半島。
 スマホを見ても、道はくねくねと曲がり行き着く先が掴めない。
 佐田岬半島は、それがいい。
 迷いながら出会う私だけのチルな時間。



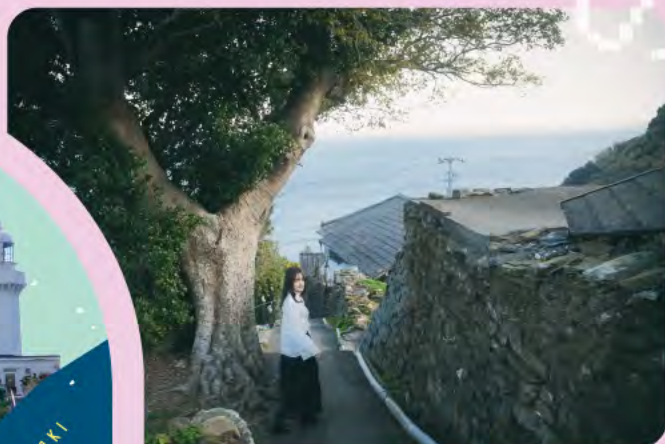
扉が開く 時空旅の 半島で、 四国の西

月の形の砂浜で 子どもの頃の記憶と遊ぶ。

旅の始まりは、お月さまの形をした白い砂浜。眼の前には、冬の名残を感じる静かな海が広がっている。しゃがんで小さな貝殻を拾い上げた。指先に触れるひんやりとした感触。子どもの頃、夢中で集めたあの頃と変わらないなめらかな手触り。まるで、ここだけ時間が止まっているみたいだ。



📍ムーンビーチ井野浦/伊方町井野浦 917



📍名取集落/伊方町名取



次に訪ねたのは、石垣が幾重にも連なる不思議な場所。手招きする少女に誘われ、石垣の小道を進む。曲がるたびに景色が変わり、まるで迷宮の中にいるみたい。「ずっとここにあるんだよ」そう言って笑った少女の姿は、次の角を曲がった瞬間消えていた。

迷い込むほどに、開いていく時間の扉。

風の音に混じる鳥のさえずり。ゆるやかな時間の流れに身を任せ、辿り着いたのは小さな港町だった。路地裏を歩いていると、どこからか不思議な音が聞こえてきた。「コットン コットン」足を止め、音の方へと視線を向ける。軒先の奥、開け放たれた古民家の中で、女性が織機を操っていた。色とりどりの糸がゆるやかに重なり合い、一枚の布へ

と変わっていく。その様子を眺めているうちに、淡い記憶の扉が開いた。そうだ、この土地には裂き織りの文化があった。かつて誰かの暮らしを包んでいた布が、新たな姿に生まれ変わる。裂き織りの音は、思い出をつなぐ音。この土地の時間は、そうして今も続いているのかもしれない。



旅の思い出を、佐田岬ブルーに染め上げて。

この半島のタデアイは、他のどこよりも大きく育つ。それも、この土地に流れる“時間”の魔法なのだろうか。染料の中に布を浸し、そっと引き上げる。最初は薄い緑色だったのに、空気に触れるとゆっくりと深い藍へと変わっていく。まるで、この旅の記憶が鮮やかに刻まれていくように。現実に戻っても、この青は私のもとに残る。いつかまた、ここへ帰ってくるために。旅の終わり、ふと振り返る。

佐田岬半島、ここは、ゆっくりと流れる不思議な時空の間のようだ。スマホの地図には載っていない、記憶の中にだけ刻まれる道。そこを歩いて出会えた、静けさと、ノスタルジーと、チルな時間。次に訪れるときも、またどこかで迷子になりながら、この半島の不思議な時空に浸りたい。



📍「佐田岬裂き織りをへや」伊方町二名津204

SADAMISAKI
 佐田岬体験博
 EHIME SADAMISAKI
 TAIKENHAKU

佐田岬体験博



ワンダーに、会いに行こう。

“ワンダー”な旅が待つ佐田岬半島の、特別な観光体験プランをお届けする「佐田岬体験博2025」が今年も開催。

※この物語はフィクションですが、佐田岬半島で素敵な旅が待っているのは本当です。

6月の情報公開&申込開始をお楽しみに!

日本一の産地で80余年。
5代に渡って受け継がれる、
技と心で作るみかんジュース。

きらめく宇和海に面して急峻な段々畑が天に至る、愛媛県八幡浜市向灘地区。この地で80余年にわたって、温州みかんの最高峰の産地でみかんをつくり続ける家族がいる。代々受け継がれるみかん畑は、品質のよいみかんづくりの条件といわれる3つの太陽、「天の太陽の光」「海面からの反射光」「石垣からの反射光」が見事なまでに揃っているが、特に日の出から日の入りまで太陽が降り注ぐ、向灘地区でもごく限られた畑では、甘味と酸味のバランスがすばらしく、とろけるような極上の味わいのみかんが育つという。

歴代の当主がたゆまぬ努力で生みだし、磨き続けてきた。水の管理や土づくり、剪定、摘果などの高度な栽培技術はもちろん、移り変わる時代を見つめ、常に新しいことに挑戦する心も継承してきた。

「祖父の時代は量を求め、父は品質の向上に力を注ぎました」。そう話す5代目が力を入れているのがジュース事業。手搾りに近い製法で、果実部分を搾った果汁と、まるごと搾った果汁の2種類を独自の比率でブレンドしたジュースは、まろやかで風味豊か。フルーツソムリエに「みかんよりみかんの味がする」と言わしめた逸品だ。

平成14年に、高品質でありながら規格外の出荷できないみかんを何とかしたいという想いから生まれたジュースは、今では種類も増え、南予一帯のみかん農家の収入源にもなっている。「うちには、人とのつながりを大切にせよという教えもあります。代々、受け継がれてきたものを次の世代に渡すためにも、地域の皆さんとともに、さまざまなことにチャレンジしたい」。時を越えて変わらぬ海と山の絶景の中、新しい未来が実を結び始めている。



お買い求めは
こちら



みかんよりみかんの味がする、濱田農園を代表するミカンジュース「きわみ」。他、お土産用180mlシリーズも大好評!!



濱田農園

愛媛県八幡浜市向灘1938 TEL 0894-22-5083
<http://www.kiwami-mikan.net/>



4代目の濱田善純さんと、
5代目で息子の直人さん

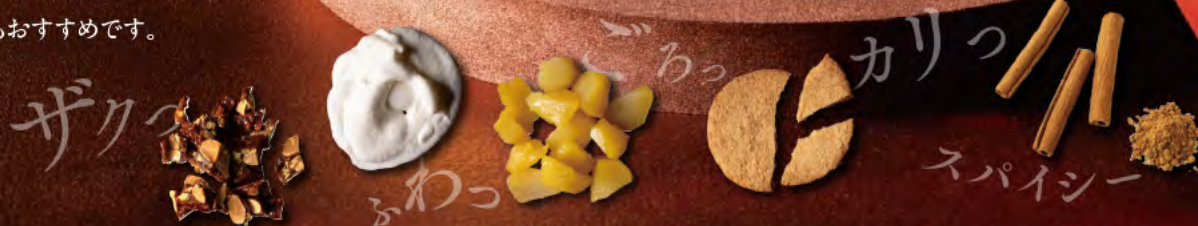


あかがね色の空が似合う、
ちょっと大人なお菓子です。

EHIME BESSEI
AKAGANE
NOUGAT GLACÉ
SAND
Besshiame Hampo

「ヌガーグラッセ」は、南フランス発祥の冷製デザートです。「AKAGANE」は、キャラメーゼしたアーモンドやピスタチオ、大粒の中山栗を贅沢に使用し、クリームチーズで仕立てたクリームをシナモンスパイス香るクッキーでサンド。様々な食感と、スパイシーな香りが織りなす大人の贅沢スイーツは、コーヒーやワインとのマリアージュもおすすすめです。

ONLINE
SHOP



創業150年、老舗菓子舗が本気で作ったお菓子です。

AKAGANE ヌガーグラッセサンド

[別子飴本舗] 愛媛県新居浜市郷2丁目6-5
<https://besshiamе.base.ec/>

B 別子飴本舗
since
1868

BOOK & MUSIC #02

本や音楽に詳しいあの人「とっておき」をピックアップ!

レコードに惚れる僕を後押ししてくれる1枚

Curtis Mayfield
Curtis

主に1960年代から1970年代にかけて活躍したミュージシャン「Curtis Mayfield(カーティス・メイフィールド)」のソロ・デビュー・アルバム。ファンクやソウルを融合させたサウンドと独特のギターと裏声を使った演奏が特徴的な一枚。

店内にはFM愛媛所蔵のレコード約30,000枚あり、音楽のジャンルは、洋楽、邦楽、映画サウンドなど幅広い。自分のレコードを持ち込み保管できる「キーシステム」もあるので、いつでも好きな曲を聴けます!! また、店内で収録しているラジオ番組も放送中! ぜひ聴いてみて。

今回選んでくれたお店
レコードBAR79.7
住/松山市三番町2-8-19
スリービル6F 営/18:00~3:00 休/火曜

マチボン編集スタッフ じの
入社6年目。K-POP大好き。素直な本や音楽を楽しめるお店を紹介していきます。

#02 味は週替わり! 幸せモコモコソフト♡

SO-SWEETNESS!

おすすめスイーツをご紹介。so yummy!

ファン純出「看板メニュー」
ピスタチオショコラクリーム

今週のソフトクリーム
炙りマッシュマロショコラ

創業からの定番メニュー
フルーツのロールケーキ

CHECK!
毎週味が変わるワクワクなソフトクリームをお目当てに来店するお客様も多いそう! 季節に合わせた味も...? お店のInstagramで味をチェックしてレッツゴー!!

マチボン編集スタッフ 菅野
万年肩こりをどうにかしたい気持ちをもつ。最近は背の心身の健康を祈りながら、自分の健康とりに励む日々。食欲。

Akatsuki Bleu
住/松山市道後喜多町7-22ヤドリギビル1F
電/089-992-9744 営/金、土、日曜11:00~17:00頃
(生菓子がない日次閉店)、カフェ営業は11:30~16:00L.O.

つくのち暮らし

収穫の喜びを味わう、畑から広がる新しい体験!

今回訪れたのは、新居浜市のはがた農園さん。波片さんはマグロ漁師に憧れから漁師の道へ。原油の高騰などの影響を受け、紆余曲折ありながら農業の道に進んだ。なかなか異色の農家さん。現在栽培している11品種の野菜は、地元の直売所で毎日完売するほど人気です。認知されるきっかけになったのは、地元のクリエイターさんと一緒に取り組んだ商品開発。人参のギフトボックスと漬物は、CCE広告賞のグランプリを受賞したことも! 今後やりたいことは、収穫とキャンプを組み合わせた食育体験。畑で取った野菜をその場で調理し、自然の恵みを体感できる「子供たちに農業の楽しさを伝えたい!」...そんな刺激的なイベントを構想しています。

マチボンECスタッフ ヤマチャン
愛媛県内を隔から隔まで駆け回る、編集部が見つけた「これぞ逸品」をご紹介していきます。

はがた農園 波片仁志さん

マチボン編集部が探してきた
いいモノあります

酒場放浪記 #02

気になる酒場を勝手に紹介

SAKABA HOUROUKI

80'sに思いを馳せて乾杯!

今回は、大人の遊び心をくすぐるBOKKEに突撃! オーナー澤村さんが厳選するクラフトビールは、まさに「時代を超えた」ラインナップ。この日は北は青森、南は愛媛と、日本各地の個性派ビールがずらり。好きなビールを選ぶ時間は、まさに大人の嗜み! 缶・ボトルでの購入もOKだから、お家で昭和レトロな音楽を流しながら楽しむのも◎。(BOKKE、スタッフさんも絶対集まっちゃいます! 自薦・他薦不問)

マチボン編集スタッフ わたなべ
このコーナーをきっかけに、いつも行くお店だけじゃなくって、まだ見ぬ名店まで行ってみたい所存!

BOKKE
住/松山市南堀端町5-6堀端テラス101A

#02 愛媛昭和遺産

現代に残る昭和の世界にこそ案内!

てんまや食堂

知る人ぞ知る 地域に根差した名食堂

本日の舞台は今治市波方町。波方駅から歩いて30分(車だと5分)ほど、小郡漁港の近くに佇む一軒の食堂「てんまや食堂」。昭和情緒溢れる店内で、子どもの頃おばあちゃんの家に行ったような懐かしい感覚。今回頂いたのは、定番の中華そば。あっさりかつ深みのあるスープと自家製麺が素晴らしいマッチし、ペロリと完食(大盛り)でも良かったな...。次に行く時は「たぐいま」と言いたい。

マチボン編集スタッフ じの
平成生まれの私にとって、昭和は未知の世界。ロマン溢れる昭和遺産を振り返らせていただきます!

てんまや食堂
住/今治市波方町中甲760-1

PRESENT MACHIBON JOURNAL

読者プレゼント

1本入りを抽選で3名様にプレゼント!

みかんより、みかんの味がする逸品

濱田農園 きわみ [1本780ml 1,300円]

愛媛みかんでも特に有名な八幡浜地方のみかんを、100%使用した無添加ストレートジュース「きわみ」。みかんよりみかんの味がする逸品として、愛媛県知事が全国放送テレビ番組で「人類史上最高傑作」と言わしめたほど。他にも、紅まどんなや甘平、せとかなど、高級相模を賢沢に使った「プレミアム」シリーズや、数量限定の「旬」シリーズ等がある。

応募締切: 2025年4月30日まで

マチボン ONLINE SHOP

愛媛で見つけた素敵なもの、ぎゅっと詰込みました。

街の魅力に気づく本「マチボン」。スタッフが愛媛中を駆け巡り、手間暇かけて集めた、地域のディープな魅力を紙媒体やSNSなどで発信しています。そこで出会った、粋な生産者が心を込めて作ったこだわりのジュースや、市場に出回らない野菜や果物、まだ知られていない絶品スイーツまで...。物語のある産物や地域の魅力ある逸品をぎゅっと詰め込みました! 取材先で感じた感動や驚きも一緒にお届けします。

マチボンショップ

店舗運営/株式会社エス・ピー・シー
TEL:089-903-3131
FAX:050-3163-1074

ここでしか買えない オリジナルグッズも販売中!

いつものレトルトカレーが、一振りでも本格的なスパイスカレーに変身するスパイスや、オリジナルのマチボングッズまで、ここでしか手に入らない商品も販売中!

CURRY GOD SPICE

あとがき

多様性の時代から全体主義、右傾化へと極端な振り幅で変わる世界。...でもそんな関係ねーっ!

俺たちや足使って、手間暇かけて、この街の多様な魅力を掘り起こすぜ! とか言ったらスタッフが一、また一人と...うーん、働き方って大事! まあ、なんやかんや楽しんでいただけたら幸いです。それではまた、次号でお会いしましょう!

Staff List

editor in chief 松下亮介

marketing staff
菅野彩 越知義彦 津部美紗
白石卓巳 岡本悠輝 豊福直人
竹内真衣

editor
和氣敬孝 高須美登里 佐伯里奈
日和佐雅貴 西谷里佳 宮川知子

designer
土居麻巴香 林真央
藤野賢大 青野麻弥

webstaff
山本祥弘

contributor
阿部美枝子 齋藤誠 武智俊介
穂丸智也 西森ちえみ 本田亜由美
矢野美也子 矢野裕子

cover illustration
アイハラチグサ

発行人/岡田克志
編集人/横山ゆい

マチボンジャーナルvol.009

発行/株式会社エス・ピー・シー
愛媛県松山市湊町7丁目3-5
編集部 tel.089-945-1139
販売部 tel.089-934-7272
印刷/セキ株式会社

掲載情報は
2025年2月26日時点のものとします。
本誌掲載の写真、イラスト、記事の
無断転載を固く禁じます。

Next Issue
古いもの。
2025年5月31日(土)
発行予定